



岩野田・岩野田北

# コミバス通信

第15号

【編集・発行】岩野田・岩野田北地区コミュニティバス等運営協議会 【発行日】令和7年3月31日

▶ 創作活動に特化した岐阜市社会福祉事業団「アートフィールド」



地域をつなぐ

新たな息吹

市内唯一の、アートに特化した生活介護事業所です。アトリエは障がいのある方の創作活動の場であり、ギャラリーでは、事業所内外の方の作品を企画展示しています。作家の皆さんの創造の世界を発信するとともに、人が集い、新たな価値観やつながりを生み出す交流の場として、令和5年4月に誕生しました。写真中の左下は、ギャラリーでの展示作品と森所長さんです。【3面参照】

## 4月から祝日の運行を開始します!!

令和5年12月から令和6年11月の運行継続判断期間を経て、4月からの“ぐるっとバス”の運行の継続が決定しました。地域の皆様のご協力、ご利用のおかげです。また、4月からの祝日運行(日曜日はこれまで通り運休)についても、2月の岐阜市公共交通会議、岐阜運輸支局への運行計画変更手続きを経て、正式に決まりました。これを受けて、運行ルート・時刻表(従来と同じ)も新たに印刷・配布しましたので、ご活用ください。子どもたちとも、“ぐるっとバス”でふるさとの歴史や文化を巡る小旅行を楽しんでみては?

●**地区収支目標を達成** 運行の継続には、地区の70歳以上の高齢者密度(人口/地区面積)に応じた収入が必要です。令和5年度までは、運行経費の15%以上でしたが、令和6年度からは運行経費の13%以上に緩和されました。収入はコミバス利用運賃と車両広告料です。このほか運行に必要な経費に、市の補助金が充てられます(補助金の上限額も令和6年度から1,050万円が1,260万円に増額されました)。

●**広告協賛へのご協力** 運賃収入だけでは、必要とする地区収入がまだ賅えないため、バス車両の広告料収入が欠かせません。試行運行が始まった翌年の令和2年当初から地区の事業者の皆さんにご協力をお願いし、これまでに延べ16業者にご協力をいただきました。現在も15業者16件の広告協力を得ています【3面参照】。

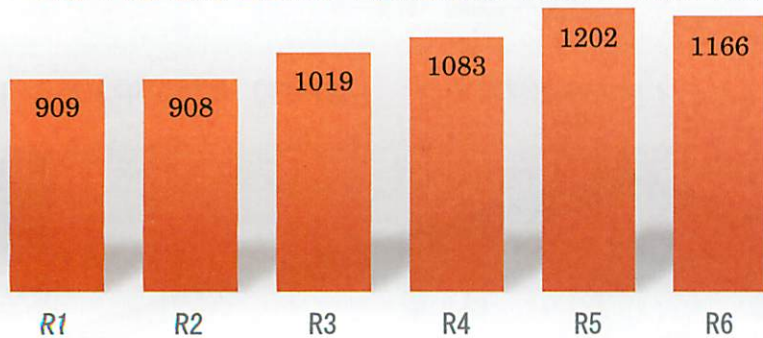




# 利用者数はやや伸び悩む

5月以降は、前年を下回る

●月平均利用者数の年間推移(今年度は12月末現在)



令和元年9月の運行開始から、利用者数は、毎年順調に増加してきましたが、令和6年度(4月~12月)は5年度より減少しました。

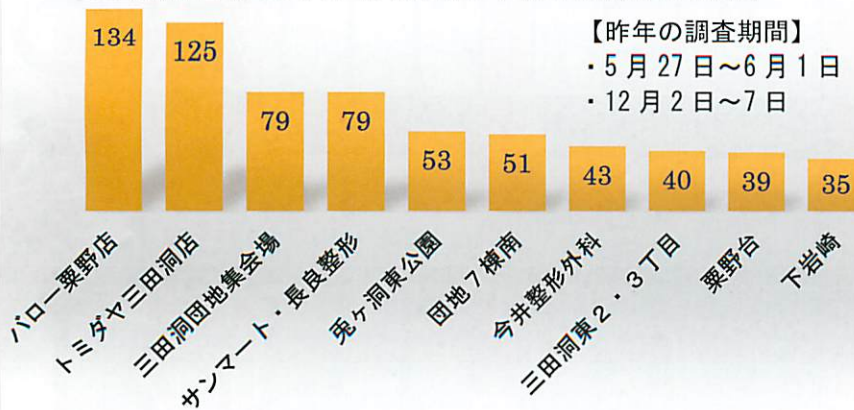
月当たり平均では、4年度1,083人、5年度1,202人、6年度は1,166人です。

昨年度導入したサポート便は、2カ所の乗り場で、6年度は6月に10人、7月に2人、そして12月に2人、今年1月には、6人の利用がありました。

## 一方、利用者は地域全体に広がる

停留所乗降調査結果から

●利用者が多いバス停(延べ12日間調査合計値)



昨年、2度にわたり、計12日間、すべての停留所を対象に乗降者調査を実施しました。グラフは、そのベスト10です。上位の8つのバス停は前年もベスト10入りしています。

新たに9位となった栗野台は、前年25位、10位の下岩崎は12位でした。

ベスト25を見てみると、岩野田北ルートに乗降者数が、前年の5つから8つに増えました。

また、全体では、前年利用者のないバス停が7つありましたが、4つに減少しました。

### サポート便を利用しています

江崎さん(女性・常磐地区)

♥岩崎山手の公園近くに住んでいますが、常磐の打越です。♥免許を返上したとき、「さんさんバス」(常磐・鷲山・長良西地区のコミバス)を利用…と思ったのですが、朝の8時過ぎに1本あるだけなので、利用しませんでした。♥“ぐるっとバス”のサポート便のを知り、乗り場も近くの公園ということで、令和5年5月から岩崎桜本までサポート便で行き、“ぐるっとバス”に乗り継いで、友達とピアゴで買い物をしたり、喫茶店でお茶を飲んだり、カラオケハッピーへ行ったりと利用しています。♥校区が異なり、コミバス通信は見えていませんでしたが、「乗車体験記を書いていただけませんか」との依頼があり、近年のコミバス通信を見せていただき、書くことにしました。これからも、ぐるっと…お出かけしたいと思います。

### 私の乗車体験記

### 買い物は混雑便を避けて

信子さん(女性・三田洞東地区)

♥“ぐるっとバス”が運行を開始した当初から週に数回利用しています。乗り場是三田洞団地集会場です。♥バローなどへ買い物に行くのに、往きは第2便、帰りは第3便を利用していましたが、利用者が多く、立つこともあったので、往きは第4便、帰りは第5便の利用に変えました。お陰で往きも帰りも座ることが出来ます。♥月1度ほどですが増田病院に通うときには、「みわっこバス」を利用しています。最寄りのバス停の薬師橋(三田洞東)まで10分ほど歩き、増田医院前で下車します。♥“ぐるっとバス”を利用したこともあるのですが、ぐるぐると回って、えらく時間がかかったような記憶があり、残念ですが通院には利用していません。

※三田洞集会場で乗車した場合、増田医院前の所要時間は、左右どちら回りも約50分です。



## 運行にご協力をいただきありがとうございます

地区収入の半分以上を占める車両広告にご協賛いただいている皆さん、ルートを確認するために敷地内運行にご協力をいただいている皆さん、本当にありがとうございます。

### ● 広告ご協賛いただいている皆さん (順不同・敬称略)

原尾エステート、神谷新聞店、今井整形外科、岩砂病院・岩砂マタニティ、三田洞歯科医院、岐北厚生病院、増田医院、かとう整形外科クリニック、ふじさわクリニック、平成調剤薬局、カワサキ保険センター、(株)米金商店、中島建築、萩建設(株)、勝栄工業(株)

### ● 敷地内の運行にご協力いただいている皆さん (順不同・敬称略)

パロー栗野店、JA ぎふ岩野田支店、ほっともつ岐阜岩崎店



シリーズ「ぐるっとつながる」⑥ 今回は、地域の文化祭にも出品いただいたアートフィールドさんです。



岐阜市社会福祉事業団 生活介護事業所

## アートフィールド



ART FIELD

ATELIER tekku + tekku  
GALLERY tekku + tekku

### ● 垣根のない創作・交流の場

現在、23人の方が自宅やグループホームから事業所に通い、絵画、造形、版画、写真、織物などの創作活動を続けています。作品は、ギャラリーでの企画展で発表したり、他事業所が運営するカフェで展示販売したり、さらには公募展に出品したり…アーティストの社会参加や人とのつながりをサポートしています。開所してまだ日も浅く、「地域の人に施設のことを広く知ってもらおうとともに、コミュニティーや地域活性化に役立つ施設として、地域の皆さんに自慢していただけるような場所に育て上げていただけたら」と森智之所長。そのためには、「地域の皆さんと、いろいろな分野でコラボレーションに取り組んでいきたい」とも。市内唯一のアートフィールドを、地域の財産としてみんなで見守り、大切に育てましょう。

企画展示期間外でも、事前に連絡をすれば作品の鑑賞や購入、アトリエの見学を行うことができます。

皆さん、ぜひ一度お出かけください。

【お問い合わせ】 ☎214-3211

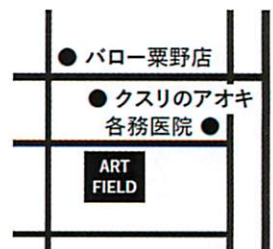


▲取材に訪れた時も、皆さんが創作に励んでみえました。

●ギャラリーでは、事業所内外の作家を紹介する企画展を年3回ほど開催しています。【開館】月曜～金曜と第1、3、5土曜日(祝日、盆期間、年末年始は除く)

【所在地】栗野東1丁目40番

【付近のバス停】トミダヤ三田洞店下車徒歩3分



### 地域が主役 みんなが主役

編 集 余 記

♥サポート便を運行して2年になります。利用者にお会いしました。気楽に利用されていて、安心しました。乗車体験記を依頼しながら話を伺うと、いろいろ工夫して利用しておられることを知り、学ぶことも多くありました。また、毎日

の運行を希望しておられました。“ぐるっとバス”も祝日運行の次の目標は、日曜日運行。地域の皆さんのご利用・ご協力のもと、実現させたいものです。♥このコミバス通信は、岩崎・栗野・三田洞を知り、郷土に愛着をと、「ぐるっとつながる」や「地域の歴史や文化を訪ねて」を連載中。子どもたちや若い皆さんも、通信を携え、休日に、“ぐるっとバス”で地域を巡り歩く、というのはいかがでしょう。♥曜日に関係のない筆者は、思い出したように“ぐるっとバス”を利用し、楽しんでいきます。♥ところで4面の昔話の「岩」と「石」は、今は何処に?



# 地域の昔話 ①

岩野田と岩野田北には、伝説がいくつかあります。その中から今回は、眉山と百々ヶ峯(峰)にまつわる昔話を、ご紹介します。

(文) 武山 武司 (絵) 小森 康正

## 五郎吉岩(ごろきちいわ)

むかし 西栗野に とても力持ちの男がおった。

名前は 五郎吉といて

村の若い衆十人と 相撲をとつても

負けなかったそうじゃ。

庭木なども 草をとるように

引き抜いてしまう。

「五郎吉の力は どの位あるんじゃ」と 噂をしておった。

ある日 本当の力を みんなに見せよう とい

うことで 眉山の麓にある 八畳敷きもある

大岩を 頂上まで 持ち上げることにした。

村人たちは 「いくら五郎吉でも あの大岩を

持ち上げることは 無理じゃろう」と 噂をした。

ところが 五郎吉は大岩に手をかけ 「エイヤー

ッ」と 声をかけると ひよいと 担いでしまった。

そして 五郎吉が歩きだすと 山道が ビシン

ビシンと 鳴ったそうじゃ。

その ようすをみて 人々は たまげて 声も

出なかった という。

だんだん 登るにしたがい

さすがに 五郎吉の 呼吸も あらく

なつてきた。でも 弱気を見せない

五郎吉は 真赤な顔をして

どなるように 叫んだ。

「これくらい 重さがなんだ。もっと 乗せろ」



村人たちは 何人かで 畳一枚くらいの 岩をのせた。

「まだ軽い。もっと 乗せろ」

村人たちは (そんな無茶な)

と 不安に 思ったが また 畳一枚ほどの 岩

を 乗せた。

こうして 五郎吉は 登りはじめた。

五郎吉が あえぐように はく息と

ゆつくり山道を ふみしめる音が 麓まできこ

えたという。

まるで 山がふるえ 泣いておるよう

じゃったそうや。

しかし さすがの 五郎吉も だんだん 足が

動かなくなり ついに 立ち止まってしまった。

五郎吉は 足を 広げて ふんばっていたが

「ウ、ウ、ウ、、、、」とうなり声をあげる

と 大岩を背負ったまま 倒れてしまった。

無残にも 五郎吉は 大岩の 下敷きになつて

しまったのだった。

その後 この大岩を だれ言うとなく

「五郎吉岩」と よぶようになった。

そこには のちのちまで お寺の

仁王門にかかっているような

「大わらじ」が 落ちていて

五郎吉が いかにか 大男だったかが わかったという。

「五郎吉岩」は 今でも 眉山の北側の中腹にある。

## 百々ヶ峯(どがみね)と見返り石

むかし 弘法大師は しゅぎょうのため 日本中

を 旅しておられた。

そのとき 三田洞の地にも

立ち寄られた。

大師は 山にかこまれた 静かなこが たいそう

気に入つて 法華経の講座を開かれた。

それが 法華寺(弘法様)の 始まりじゃ。

そして あたりの 峯の数を かぞえてみると

九十九峯しかなかった。

大師は

「あと一峯あつたらなあ」

と 嘆かれたそうや。

大師は また 旅に 出られることになった。

村人たちは 大変さんねんに思い

この山を「百々ヶ峯」と よぶようになった。

人々は 別れを惜しんで 村はずれまで

見送りに出た。

大師は 路のそばにあつた 形のよい 美しい石を

みつめて 腰をおろして 休まれた。

三田洞の地を しっかり 頭の中に おぼえておこ

うと くり返つて じつと 見つめておられた。

自然のなかに とけこんだ大師の 姿は

美しかったそうじゃ。

大師が 腰かけられた その石は 「見返り石」と

